一般質問詳報

山岡光広・岡田重美・西山実議員が一般質問

発言順

山岡光広議員

◆居所不明（失踪中）の高齢者の預金通帳から後期高齢者医療保険料を差押え、◆自治振興会・交付金の見直し、◆第二次甲賀市小中学校再編、特認校の良さをどう生かすのか、◆トイレに生理用品を

問　居所不明(失踪中)高齢者の通帳から後期高齢者の保険料を差押え。親族に一言の報告もなし、なにより本人は後期高齢者医療に加入したこともないし、医療サービスを受けたこともない。「手続きに法的問題はない」といえども、地方自治体がすべきことか。

市民環境部長　法律に基づき手続きをしたが、親族に対して説明や配慮に欠ける結果となったことは大変申し訳ない。

市長　特例措置は、国において精査・検討すべき課題なので、国に報告させていただく。

問　「甲賀市にとって貴重な教育的資産」と評価した特認校をなぜ統合するのか。子どもが減少するなかで、再編は一定理解もするが、特認校の良さをどう引き継ぐのか、小規模の学校も残し、「選択」することができる学校再編は検討しなかったのか。

教育長　特色ある教育活動や多様な学びを継承するなどの取り組みをすすめる。

問　自治振興会交付金の見直しで「敬老事業に特化することなく…」としていることは、交付金の自由裁量に制限を加えるもの。自治を育てる姿勢ではない。

総合政策部長　商品券や弁当代のみに使っている例があるため。

岡田重美議員

◆被爆８０年の年、日本政府が核兵器禁止条約を批准、市の平和事業を推進、◆女性相談支援員、◆南土山地先産廃処分場建設計画、◆荒廃した茶園の対策、◆旧東海道土山大野間のカラー舗装修繕

問　ＤＶなど困難な問題を抱える女性の相談は昨年３００件を超えた。女性相談支援員は会計年度任用職員１名が配置されているが、正規職員とすべき。また複数配置し体制強化を。

こども政策部長　正規職員の配置、迅速な対応ができるよう複数配置も考える。

問　南土山地先産廃処分場計画については、地元をはじめ野洲川下流域住民の水質汚染等に関する不安は大きい。県内最大規模となる産廃処分場が、野洲川の上流、自然豊かな地に造られてよいのか。

市長　住民の不安・懸念が払しょくされ、自然や生活環境が保全されるよう、県に対し徹底した審査が行われるよう、最大限努力したい。

問　後継者がなく荒れた茶園が多くなり、環境や景観などの悪化が深刻化している。荒廃茶園への対策はどうか。

産業経済部長　第三者の茶農家が荒廃茶園を解消する場合、市独自の支援を行っているが、全ての荒廃茶園の解消には至っていない。関係機関と支援策について協議進めたい。

問　荒れている旧東海道土山大野間のカラー舗装を段階的に修繕する計画を。

建設部長　段階的な修繕の計画はないが、部分的な修繕を継続していく。

西山　実　議員

◆水口城址お堀周りの抜本的な管理を◆小中一貫校の推進問題について◆空き家対策の強化、住宅リフォーム補助の拡充を◆地域公共交通「岡山モデル」について◆市営住宅の周辺環境の管理を

問　水口城址お堀周りの雑木が生い茂り景観を大きく損ねている。計画的に伐採することが必要ではないか。

教育委員会事務局理事　堀の外側は、繁茂状況を現地で確認したうえで、必要に応じて順次伐採等を行う。堀の内側については、県に対して伐採等の管理を要請する。

問　２０２５年６月末現在の実質空き家数は１７５７件。新たな空き家を生み出さない取組みを

建設部長　固定資産税の納税通知書の発送に併せて、空き家に関する相談先などを記載している。相続予定人に対して、窓口業務での相談や、出前講座、空き家相談会を活用いただいている。

問　岡山市では、地域公共交通網を守るために「交通事業者等との協議を行い、各種施策を実施」「運転手確保のために二種免許取得にかかる経費を補助」「国の補助を活用し、市内共通のＩＣカードシステムを構築し、利便性を確保」している。甲賀市に活かせないか。

建設部理事　「国庫補助金の活用」や「地域が主体となった乗合タクシーの運行」「ＩＣカード活用による65歳以上の方の割引乗車制度」や「路線の効率化」など本市の課題解決に参考になる事業が多く、研究を進める。

西山　あっという間の四年間でした。でも、市民の皆さんの声を議会に届ける大事な議席であることを痛感しました。

山岡　そうですね。水口地域では、八年間も日本共産党の議席がなかった。西山さんが議席を得て、本水口バス停のトイレの改善、水口城跡の御成橋の付け替えなど次々と要求が実現しました。

西山　はい。さまざまな人から切実な要求が寄せられ…。

岡田　そうですね。一般質問の持ち時間30分では足りない。

山岡　毎議会発言するのはもちろんですが、取り上げたテーマが多いのも日本共産党議員団に寄せられる要求の反映ですね。市政に対しても、問題点を指摘するだけでなく、積極的な提案を行ってきた。

岡田　手話言語コミュニケーション促進条例や公文書管理条例などの提案や加齢に伴う補聴器購入に補助する制度も実現。

西山　制度化したのは、評価ですが、補助対象が非課税世帯に限られているのは、改善が必要です。

山岡　そうそう。九月議会の決算審査でも、予算が１４０万円なのに決算はわずか３０万円だったので、「加齢に伴い難聴になるのは非課税世帯だけではない。合理的配慮に欠けるのは非課税世帯だけではない」と指摘し、制度の拡充を求めました。

岡田　特に、福祉の問題を取り上げるのは、日本共産党。

西山　そう思います。そういう意味でも日本共産党の議席はとっても大事だと思います。